

サポクラ 通信

令和4年(2022年)8月号

今月の内容は...

- ・8/10 World Lion Day1
- ・8月12日って何の日?3
- ・爬虫類の記念日?6
- ・久しぶりに会うチンパンジーのお話8



8/10 World Lion Day

皆さん、8月10日は何の日かご存じですか？

ライオンの現状を広く知ってもらうことを目的として、アフリカにある11か国で19の国立公園の保護管理を担う非営利団体「African Parks」が2013年に「世界ライオンの日」と制定しました。

百獣の王と呼ばれるライオンですが、野生下では1980年代には推定 **75,000 頭**と言われていた頭数が2015年には **20,000 頭**まで落ち込み、40年間で約3分の1になりました。

減少の大きな要因には生息域の減少やそれに伴う人間との軋轢（銃や罠による駆除）、また薬として使用するための密猟や、趣味や娯楽を目的とし、頭などを持ち帰って飾るトロフィーハンティングによるものがあげられます。

生息域の推移を表したもの
オレンジ：絶滅した地域



引用 標準原色図鑑全集 20

今回の「世界ライオンの日」では、ライオンについての掲示や、バックヤードツアーのイベントを行いました。（掲示は9月11日まで実施しています。）



○サインの展示

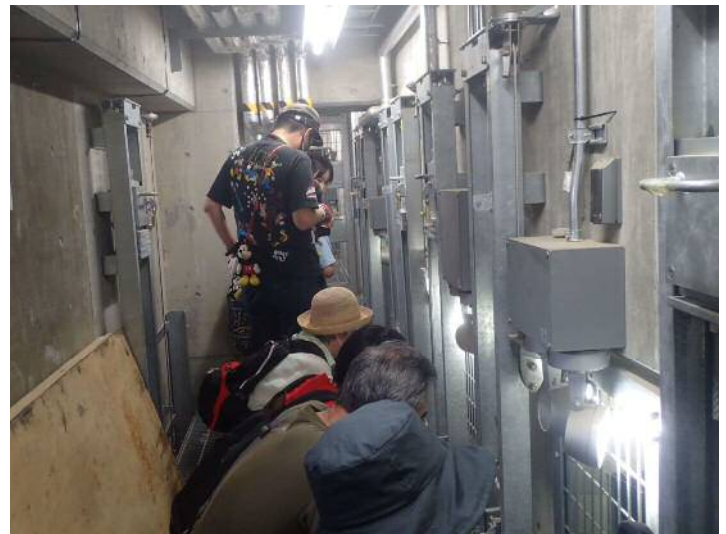
ライオンの生態や置かれている現状の掲示の他、来園者の方に参加してもらいライオンについて考えてもらうような掲示も行っています。



また、ライオン関連図書の設置や過去のライオンに関するのサポクラバックナンバーの掲示も行っています。

○バックヤードツアーの実施

現在、円山動物園では、リッキーの死亡後ライオンの展示を行っていません。飼育していない状況だからこそ皆様に普段どういう場所でどのようにライオンが飼育されているのか知ってもらう機会として普段入ることのできない獣舎内を巡るバックヤードツアーを10、11日の2日間実施しました。



実際に普段目に見えない展示の仕組みや、ライオン目線での施設導線など体験してもらいました。

動物園でも人気のある、私たちにとって身近なライオンの野生での現状を、簡単には変えられないからこそ、まずはライオンについて知ってもらうことが始まりだと思います。動物園という実際の姿を見ながら動物について学べる環境において飼育員としてよりたくさんの情報を発信していけるよう努めると共に、世界ライオンの日を通して、ライオンについて興味を持ち考えてもらうきっかけになることを願います。



8月12日って何の日？

いつもご支援ありがとうございます。2班鎌田です。
北海道も暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか？
皆さんは8月12日が「世界ゾウの日」だということをご存じでしょうか。
今回は世界ゾウの日についてご紹介します！



世界ゾウの日って？

世界ゾウの日とは、2012年8月12日、野生生物を中心とした映像作品の制作・監督をしているカナダ人の Patricia Sims 氏とタイの保護団体 Elephant Reintroduction Foundation によって設立された、世界中でゾウの保護を呼びかける日です。

野生のゾウの現状

現在、地球上にはアフリカゾウ、アジアゾウ、マルミミゾウの3種のゾウが生息していますが、その生息数は減少傾向をたどっており、絶滅危惧種に指定されています。ゾウは守らなければいけない動物なのです。



写真はミャンマーに生活していた時の当園のゾウの様子です。

野生ゾウをとりまく問題

ゾウは生息地である森林の減少、象牙問題、人間との軋轢^{あつれき}など様々な問題を抱えており、解決にむけて考えていくことが必要とされています。



アジアゾウの生息数は？

当園では2018年にミャンマーから4頭のアジアゾウを導入しました。
100年前は10万頭程生息していた野生のアジアゾウ。現在は4万5千頭～5万頭程に減っているといわれています。



ゾウたちを守るために

私たちができること

まずはゾウやゾウの生息地について知ることが大切です。知って、調べて、考えて、周りの人に伝えることで、環境は変わっていくかもしれません。他にも環境にやさしい日用品を使うなど、小さなことから始めていきましょう。



特別イベントを実施しました

今年の「世界ゾウの日」では、8月6日～14日まで、アジアゾウチャリティガチャを設置しました。返礼品を製作するために要した実費を除き認定 NPO 人ボルネオ保全
トラスト・ジャパンに寄付される仕組みです。たくさんの方に寄付していただきました。

8月12日は特別ガイドを実施し、アジアゾウの生態や、生息地の環境問題、野生ゾウを守るために私たちが
できることについて詳しくお話ししました。たくさんの方の来園者の方にお聞きいただきました。ありがとうございました。



責任ある森林管理
のマーク

RSPO マークや FSC マーク。これらは環境に配慮して作られた製品である証です。この他にも様々な認証マークがあります。商品のパッケージに記載してあるので、ぜひ探してみてください。

動物園での取り組み

ゾウ舎で行われるガイドでは、アジアゾウの生態や生息地の環境について担当者が解説します。また、ゾウ舎にはたくさんの解説版が設置されており、楽しみながら学べる仕掛けがたくさんあります。

動物園に来られた際にはぜひ注目してみてください。



ガチャガチャはさつぼろ円山動物園サポートクラブの協力を得て、設置することができました。

今回は返礼品としてオリジナル缶バッジとマグネットをご用意しました。



最近の円山のゾウたち

最近のゾウ達の様子をご紹介します。
8月は人間にとっても、ゾウにとっても暑い季節。
それでも毎日元気いっぱい！
水浴び、泥浴びをしながら暑さをしのぎ、生活しています。



暑い日、ゾウ達は水浴びや泥浴びをよくします。気づくとドロドロに！



樹木の給餌も継続して行っています。
バキバキと良い音をたてて食べます。



ゾウは足の爪の周りにだけ汗をかくことができます。
シーシュは4頭の中でも汗っかき！



飼育員がホースから水浴びさせることも。
この日は普段はあまり浴びにこないパールも水を浴びていました。

暑い日が続きますが、皆様お身体にお気を付けくださいね。
また、動物園でお待ちしております！



～爬虫類の記念日？～

皆さん日頃からのご支援ありがとうございます。爬虫類・両生類館の担当をしています片岡です。今回はどうやら動物の記念日について書いている専門員ばかりのようなので、私も真似をしまして爬虫類にまつわる記念日をいくつか紹介したいと思います。それと同時に爬虫類の現状についても簡単にご紹介させていただきます！

～世界カメの日～

5月23日は世界カメの日ということをご存じでしょうか？カメに関心を向け、知識を深め、敬意を払い、カメの生存と繁栄のための人間の行動を奨励する日として、2000年に米国カメ保護会「American Tortoise Rescue」によって制定されたカメのための記念日なのです。



アメリカの環境団体ネイチャーサーブによると、なんとカメの現存する種類（約300種）の約半数が絶滅の危機に直面しています。その原因としては都市開発や農業による開墾、食用としての乱獲など人間の社会活動の影響があげられます。ペット目的の乱獲についても野生への影響は大きいのです。日本にも毎年多くの爬虫類などが輸入されてきますが、特にカメの輸入が多いとされています。しかし中にはとても希少な種類なのに正式な手続きを踏まず密輸入をされてしまう個体もいます。空港の税関などで密輸入個体が発見された場合、野生に戻すことは困難なため環境省から動物園での飼育を依頼される場合がほとんどで、円山動物園にも密輸入で保護された爬虫類などが多く飼育されています。しかし税関などで発見される個体は氷山の一角だと考えられ、多くの動物たちがペット市場に出回っているといわれています。最近ではペットショップなどで珍しい動物が並んでいたりしますが、その個体が実は違法に輸入された個体で、販売側も買う側も知らず知らずのうちに密輸入に加担してしまっているなんてこともあり得るのです。動物を家で飼育すること自体は悪いことではありませんが、こうした被害を受けている野生動物がいることを知っていただきたいです。

こうした現状をお伝えするため、5月23日には世界カメの日特別ガイドということで、爬虫類・両生類館で飼育しているカメに餌を与えながら解説をしたり、ゾウガメの体重測定、普段出すことのないカメの甲羅の標本を見てもらうなど、特別なガイドも実施しました。



多くの方にご参加いただきました。



ホウシャガメが餌を食べているところを見ながら解説している様子。

～世界ワニの日～



世界ワニの日は6月17日になっています。世界のワニの専門家、科学者、研究者がチームとなって、世界に生息しているワニの現状や危機に関する啓蒙を目的として制定された記念日です。ちなみに8月2日は日本ワニの日となっていますが、こちらはただの語呂合わせだけの様な気がします・・・

ワニは世界に23種いるとされていますがそのうちの約半数の種が絶滅に瀕している事が調査によりわかってきました。ワニの生息数が減ってしまった理由としては生息地の環境破壊もありますが、革製品（財布や鞆など）や食料にするために密猟されている事も大きな理由の1つです。

絶滅危惧種と指定され円山動物園でも飼育しているヨウスコウワニのように、国レベルで繁殖に取り組み、安定して飼育個体数を増やすことができている例もありますが、飼育下繁殖した個体を戻すことのできる自然の環境が残っておらず、野生のワニの生息数自体はなかなか回復していないのも現状です。たとえ繁殖がうまくいって個体数が増えたとしても、人間が壊してしまった自然環境が生き物の棲める状態に回復するには長い時間を要するのです。

6月17日の世界ワニの日にはこちらも特別ガイドを実施しました。普段行っている給餌ガイドに加えワニの歯を触っていただくなどのガイドを行いました。

～世界ヘビの日～

世界ヘビの日は7月16日に制定されていますが、詳しい起源などはわからず・・・世界の愛好家などがヘビについて普及啓発する日となっています。

ヘビは苦手な方も多いと思いますが、ペットとしての需要は年々増えており、野生個体への影響は計り知れません。近年ではペットとしてヘビを飼育する人が増えたことで、ヘビによる死亡事故や家からの脱走などの問題が多く見受けられるようになりました。動物を飼育する際にその種の生態などをしっかりと理解せずに飼育し始めてしまう事が原因ではないかと考えています。

世界ヘビの日に関しては2日間にわたり特別ガイドを行い、透明骨格標本などを使った体の仕組みの解説、給餌をしながら解説したりと普段はなかなかできないような内容のガイドをさせていただきました。



実際にヘビにも触ってもらいました

今回は3つの記念日をご紹介させていただきましたが、爬虫類の記念日はまだまだあります。もし興味が湧いてきた方はぜひ調べてみてください。爬虫類・両生類館では特別な日でなくても、日頃から週3日程度様々な内容でガイドを行っていますので、円山動物園にお越しの際はぜひ参加してみてください。お待ちしております。

「久しぶりに会うチンパンジーのお話」

サポートクラブの皆様いつも応援してくださいましてありがとうございます。

チンパンジー、ヒグマを担当している祐川です。

約10年ぶりにチンパンジー担当に戻ってきました。

これまでなるべくチンパンジーの前から姿を隠してまいりました。

理由は大きく2つ

- ・現担当者とチンパンジーと信頼関係を損なう恐れがあること。
- ・人工保育個体「レディ」の群れ復帰後の妨げになること。

「久しぶりに会うチンパンジー」

チンパンジー達は覚えてくれていましたが、現担当者の信頼関係がしっかりあるため私には昔のような信頼関係はありません。

それに10年前は、子供だったチンパンジー達が成長して見分けがつかないくらいです。さて、チンパンジーの担当に戻り約4か月が経ち気づいたのは私の担当していたころより落ち着いているというか穏やかな群れになっているということです。

私が担当していたころは年に何回か麻酔をかけて治療するぐらいの大けがをする闘争がありました。

なぜ、今は穏やかなのでしょうか？大きな理由は2つ



① いい距離間の信頼関係。

動物専門員が数人のチームでチンパンジー達の健康チェックをするトレーニングが毎日あります。

担当者は、檻越しに手で合図をすると手の様々な合図を見分けて手足尻口などを見せてくれて触らせてくれます。

中には教えていないことまで積極的にみせてくれることさえあります。



② 居心地が良い。

フィーダーの設置や消防ホースを使ったベッド作りといった、環境エンリッチメントや動物福祉を向上する取り組みによって、闘争、怪我

の少ない良い環境ができていますからだと思います。

これからも動物たちにとってより良い環境づくりや良い信頼関係をつくっていきますので引き続き応援よろしくお願いたします。

